



丹那小だより

函南町立丹那小学校
令和5年6月発行

食農体験でつながる人 もの こと 「自給自足DAY 11.15」に向けて

校長 土屋 貴俊

11月の「自給自足DAY」に向けて、学級やペア学年で話し合い栽培作物が決定しました。1・6年生はさつまいもと白菜、2・5年生はじゃがいも、3・4年生はかぼちゃとなりました。これらの活動は、東部農協青年部や地域の皆様のご支援ご協力（環境整備や技術指導等）のおかげで成り立っています。

この作物を決定するまでには、子供たちはインターネットで栽培時期や育てやすさ等を調べました。さらに丹那の気候にあったものかの判断をCS委員の神尾さんと相談しながら決定してきました。

昨年度5年生の子供たちは、秋のトウモロコシ栽培に挑みました。10月の天候が不順だったため思うように生長せず、最後の1ヶ月は毎日心配しながら生育状況を確認しにいく子供たちの姿がありました。ミニ白菜に挑戦した6年生は、害虫との戦いでした。消毒して虫を寄せ付けないようにするのは簡単ですが、毎日目視で点検して虫を一匹ずつ駆除していきましました、とても地道で根気のいる作業です。安心安全な食材を提供するためにみんなで考えながら協力し合いました。今年も昨年度のことを生かしてみんなで知恵を出し合い、専門家から助言をいただきながら取り組んでいくことと思います。



5月26日（金）に5年生は名賀の神尾さんにご協力いただき、田植えをさせていただきました。機械ならばきっと10分程で終わる広さでしたが、手植えとなると10人で約2時間にも及ぶ作業となりました。水田の中に足を踏み入れた感触、その歩きにくさ、足をとられ腰をかがめて作業する苦労、田んぼに生息する多様な生き物との触れあいなど子供たちにはたくさんの気づきがありました。さらに、苗をまっすぐ一列に植えるために縄をぴんと張ります。その両端で「～さんのところあともう少し植えて」「次移動するよ」などみんなに大きな声で指示する子供の姿も見られました。チームワークの大切さも実感したことと思います。

「自給自足」という言葉を調べると「wikipedia」には、「自分自身に供給し自分自身を満足させること」とあります。達成感や成徳感、やはり自分で目標をもち成し遂げた時に味わえるものです。「自分みがきタイム」も始まって半年が経ちます。学びについても自分にとって必要な学び、興味のある学びを自覚し、自分で計画を立てながら進めて欲しいと願っています。学校は子供たちが自分に合った目標を見つけ、その達成に向けて努力できるよう伴走者となって支援していきます。